

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和4年11月

山陽学園短期大学

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組	
	1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	2
	1-2 教職課程に関する組織的工夫	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	
	2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	7
	2-2 教職へのキャリア支援	9
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	
	3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	11
	3-2 実践的指導力育成と地域との連携	13
III	総合評価	15
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

1. 大学名：山陽学園短期大学
2. 所在地：岡山県岡山市中区平井 1-14-1
3. 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 208名／こども育成学科全体 208名

教職課程履修 42名／健康栄養学科全体 166名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）11名／こども育成学科全体 11名

教職課程科目担当（教職・教科とも）3名／健康栄養学科全体 10名

2 特色

本学の教職課程認定は下記の通りである。

(1) 幼稚園教諭二種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学科】
幼稚園教諭二種免許状	こども育成学科

(2) 栄養教諭二種免許状

【免許状の種類及び教科】	【課程をおく学科】
栄養教諭二種免許状	健康栄養学科

本学の教職課程は、「愛と奉仕」の精神を基礎とし、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性と専門性を兼ね備えた、以下のような教師を養成することを目指している。

1. 社会的使命感と教育的情熱にあふれた教師
2. 育ちゆく幼児・児童・生徒への温かな共感を持ち、寄り添って根気よく成長を促せる教師
3. 幅広く深い教養、高度な専門知識および確かな教育技術に支えられた実践的な教育的指導力のある教師
4. 子どもたちの模範として行為できるとともに、自ら学び、成長し続けられる教師
5. 同僚教職員、保護者、地域社会や関係諸機関と緊密に連携して教育に当たれる教師

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

山陽学園は明治19年創立以来、キリスト教的な精神に基づく「愛と奉仕」を教育理念としてきた。それは草創期から本学園の中心となってきた上代淑の精神を受け継ぐものがある。

その伝統を引き継いで、山陽学園短期大学では、今日までこの「愛と奉仕」の精神に基づく教育を通じ、すぐれた職業人を産業界・教育界等、社会の各方面に輩出してきた。

山陽学園短期大学では、現代の日本社会のさまざまな実態や問題に目を向けながら、こうした本学の伝統と特性を生かして、社会貢献できる人材を育成することを目指している。

このような中、教職課程教育の目標として、本学では建学の理念である「愛と奉仕」の精神を基盤とし、教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性と専門性を兼ね備えた教師を養成することを目指している。

また、こうした本学の伝統と特性を生かして、社会貢献できる人材を育成するために、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）を作成し、これに沿って設定された授業科目を学び、学則に定める所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し短大学士の学位を授与する。

まず、こども育成学科、健康栄養学科における各カリキュラム・ポリシーを示す。

【こども育成学科】

1. 学生と教員とのコミュニケーションを大切にし、学生参加型の授業を行う。
2. 実習やボランティア活動に重点をおき、実践的な学びの中で、自己管理能力やチームワーク力、リーダーシップ力等を育てる。
3. 健康栄養学科との学科間交流を推進し、「食のわかる保育者」の育成に努め、幅広い視野に立った学びを展開する。
4. 初年次教育科目として「知的生き方概論」を設け、短期大学教育への円滑な導入を図っていく。
5. 「キャリアデザイン」等の科目によりキャリア教育を重視し、専門職としての取組みやあるべき社会的役割についても学ぶ。
6. 学修の評価は、授業概要（シラバス）に記載されている【成績評価の方法・基準】（筆記試験、論文、実技等）に基づいて科目担当教員が行う。成績の評価は、100点を満点、60点以上を合格として単位を認定する。

【健康栄養学科】

1. 学生と教員とのコミュニケーションを大切に授業を行う。
2. 実習やボランティア活動に重点をおき、能動的な学びの中で、問題解決力、自己管理能力やチームワーク力、リーダーシップ力等を育てる。
3. 栄養士免許取得に必要な専門教育科目は、専門基礎科目から専門科目へと体系的に開講する。

4. 初年次教育科目として「知的生き方概論」および「一般教養基礎」を設け、短期大学教育への円滑な導入を図る。
5. 「社会人入門」等のキャリア教育科目を通じて、栄養士としてのあるべき社会的役割を学ぶ。
6. 学修の評価は、授業概要（シラバス）に記載されている【成績評価の方法・基準】（筆記試験、論文、実技、出席状況等）に基づいて科目担当教員が行う。成績の評価は、100点を満点、60点以上を合格として単位を認定する。

これら各カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教職課程に沿ってディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）が定められている。その内容は、『履修便覧』等にも示され、学生・教職員間で共有されている。

各学科のディプロマ・ポリシーは、次の通りである。

【こども育成学科】

1. 専門分野の幅広い基礎知識と実践力をもつ。
2. 「愛と奉仕」の精神を保育の専門職として具現化していくことができる。
3. 問題を発見し、他者と協働しながら創造的に問題を解決していくことができる。
4. 「講義」「演習」「実習」での学びやボランティア活動を通して、専門職としての職業人の教養を身につけ、社会に貢献できる。

【健康栄養学科】

1. 「食」を通して人々の健康の維持・増進に貢献できる。
2. 健康と「食」についての知識・技能・実践力をもつ。
3. 健康と「食」に関するさまざまな情報を、科学的根拠に基づいて判断できる。
4. 責任感を持ち、周囲と協力して仕事を進めることができる。
5. 課題を発見し、それを解決するための取組ができる。

〔長所・特色〕

こども育成学科では、本学の教職課程で育成を目指す教師像を踏まえ、学科のディプロマ・ポリシーのなかの次の3つを育成すべき幼稚園教諭像に取り入れている。

1. 専門分野の幅広い基礎知識と実践力をもつ。
2. 問題を発見し、他者と協働しながら創造的に問題を解決していくことができる。
3. 「講義」「演習」「実習」での学びやボランティア活動を通して、専門職としての職業人の教養を身につけ、社会に貢献できる。

このような人材を育成するために、こども育成学科の教職課程は、次の3つの学びの特色を掲げ、各教員で共有し、協働的に取り組んでいる。

1. 附属幼稚園との交流を通して子どもの成長と発達を学ぶ機会を設け、子ども一人ひとりの個性や好奇心・探究心をくみ取り、子どもの成長に寄り添える感性をもった保育者を養成する。
2. 実践的な授業を行い、実習やボランティアの機会を通じて、保育の現場で活用できる知識や技術を身につけることができるようにする。
3. 「親子交流広場」などの子育て支援活動への参加を通じて、学生が保護者や地域との連携・支援に必要な知識や技術を学び、信頼できる保育者としての心構えを身につけることができるようにする。

健康栄養学科では、建学の理念である「愛と奉仕」の精神、およびディプロマ・ポリシーを受け、栄養教諭養成の目的達成のために、育成すべき教員像（指標）としている。

1. 「食」を通して人々の健康の維持・増進に貢献できる。
2. 健康と「食」についての知識・技能・実践力をもつ。
3. 健康と「食」に関するさまざまな情報を、科学的根拠に基づいて判断できる。
4. 責任感を持ち、周囲と協力して仕事を進めることができる。
5. 課題を発見し、それを解決するための取組ができる。

このような人材を育成するために、健康栄養学科の教職課程は、次の3つの学びの特色を掲げ、各教員で共有し、協働的に取り組んでいる。

1. キャンパス内にある山陽学園短期大学附属幼稚園の園児を対象に、給食管理や栄養指導などを行う。リアルな現場で実践力を身につけ、保育所や認定こども園なども就職の視野に入れることで、将来の選択肢が広がっている。
2. 視覚からの理解を促したビジュアル教材で直感的に栄養バランスを理解するよう、授業内容は工夫されている。
3. 恵まれた実習環境や充実した設備を使用し、栄養士経験を豊富にもつ教員が基礎から丁寧に指導することで栄養士としての実践力や判断力、心構えといった即戦力が身につくよう工夫している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：山陽学園短期大学「履修便覧2022」P.3～5
- ・データ：「山陽学園大学・山陽学園短期大学の教職課程について」
(URL:<http://www.sanyogakuen.net/uploads/page/unit/files/9c39aaa102d94d5818be528e16e86491.pdf>)

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するに当たり十分な教育業績・研究業績を有する教員、および学校や幼児教育を行う施設等において長年にわたる教職経験のある教員を実務家教員として配置している。これら教員の業績等（文部科学省による教職課程認定に基づく教員業績）に関しては、本学のホームページ「大学の概要」の「教員紹介（担当授業科目に関する研究業績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況等を掲載）」で確認できる。

また、教職指導のための組織的な取り組みとしては、本学及び併設の山陽学園大学が連携した全学組織として「教職課程委員会」を設置し、大学・短大両組織を総合的に統一した体制となるよう整備している。この組織は、教職課程を有する学科の教員および教務部長、教務部次長、教務部事務担当で構成されており、全学的な教職課程教育全体の共通理解と協力体制が構築されている。

以上の人的資源とともに、教職課程教育を行う上での物的資源である施設・設備の整備をすすめており、ICT 教育環境の適切な利用も可能となっている。全学的に講義棟では Wi-Fi でのネット接続はほぼ可能である。さらに、各教室にプレゼンテーションソフト等の ICT 機器を活用できる環境が設備されており、「e-ラーニングシステム Moodle」を教材としたオンライン授業や Teams 等によるライブ授業に対応できるよう整備されている。次に、授業の質的向上のために、原則学期毎に授業評価アンケートや教員相互による「授業公開」を行い、授業・カリキュラム改善に努めている。また、教育・学生支援体制の整備であるファカルティ・ディベロップメント (FD) や職員の能力開発であるスタッフ・ディベロップメント (SD) の取り組み等を展開し、教職科目も含めて、カリキュラム・授業の改善、教育・学生支援体制の整備に取り組んでいる。このような教育改善活動により、PDCA サイクルに基づいた授業改善に努めている。また、毎回の授業への質問や感想等各授業に対する学生のコメントを生かし、授業の改善や支援に役立てている。

さらに、教員養成の状況についての情報公表であるが、大学のホームページにある「大学の概要」の中に「教員養成の状況についての公表」のページがあり、公にされている。

〔長所・特色〕

こども育成学科では、入学者のほぼ全員が幼稚園教諭二種免許状の取得を目指しており、新入生オリエンテーション時から教職課程の円滑な履修に向けて指導している。履修にあたっては、各学科の教務担当教員及び職員、またクラス顧問が各学生の履修計画作成に助言し、またその他各種相談に応じている。また、「履修カルテ」に加えて、令和3年度より学生が単位修得状況や今後修得を予定する科目の順序を視覚的に把握でき、また半年ごとの目標を記入する「履修確認シート」を作成し、主体的に学修に取り組めるよう、オリエンテーションや面談で活用している。

1年次では、「教職論」「教育実習指導」等の教職科目を履修するなかで、教職への意志の確認と、実習に向けて学習の必要性を自覚できるように指導している。「教育実習 I（観察）」では、

山陽学園短期大学附属幼稚園での実習を通して、幼児の実態と幼稚園教諭の職務内容の特色を理解することを目指している。

2年次では、「教育実習Ⅱ（総合）」を行い、学内で修得した知識・技能を基に、教育現場での経験を深めつつ実践力を高め、保育者としての資質および自覚を培う。実習後には「保育・教職実践演習（幼稚園）」を通じて実践力をさらに向上させることにより、保育者として円滑にスタートできるような資質・能力を身に付けさせる。

健康栄養学科では、入学時のオリエンテーションにおいて、教職課程のガイダンスを行い、教職免許（栄養教諭）を取得しようとする学生が教職に対する理解を深め、教職課程の履修を円滑に行えるよう指導する。

履修は、学科の教職課程委員が履修計画作成の指導や助言を行い、教務部でも、教職担当職員が履修指導及び各種相談に応じる。

また、「履修カルテ」の導入により、教員は学生の履修状況を把握し、きめ細かな指導を行っている。学生は、教員からのフィードバックにより、自己の特性や課題を自覚でき、主体的に教職課程の学修に取り組んでいる。

1年次では、実習校での次年度の教育実習へ向けた課外での「栄養教諭事前指導」を行うことにより、教職への意志の確認と、実習に向けて学習の必要性を自覚できるように指導する。

2年次では、事前に十分な準備をしたうえで教育実習を行い、現場において教職の実務を学ぶとともに、実習後には「教職実践演習」を通じて、教職に対する意識を高めていくように指導を行う。

なお、学生が学校現場を体験できるよう、学習支援ボランティアなどの機会を提供する。さらに、教員経験者による講話や在学生との交流の場を設けて、学生が問題意識を持って教職課程の履修に取り組む姿勢を培う。

〔取り組み上の課題〕

従来、短期大学両学科では、一般教育科目の一部として情報教育を行ってきたが、専門教育にICT教育をさほど導入してこなかった。従って、両学科の専門教育等でICT教育のための設備を今後整えていく必要がある。

こども育成学科では、授業を行う教室のWi-Fi環境やICT教育に必要な端末の整備を進めるほか、授業においてICTを効果的に活用することも課題である。

健康栄養学科では、学内のICT教育環境の整備ができつつあるが、学生の端末保持率が高くないため、ICT機器を活用した授業の実施回数が増えにくい状況にある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：山陽学園短期大学「履修便覧2022」P.53～61
- ・データ：「山陽学園大学・山陽学園短期大学の教職課程について」
(URL:<http://www.sanyogakuen.net/uploads/page/unit/files/9c39aaa102d94d5818be528e16e86491.pdf>)

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

入学者受け入れの礎となる、いわゆる求める学生像（アドミッション・ポリシー）には、本学としての教育理念に基づき、各学科の求める人材像が分かりやすく示されている。これらは、大学ホームページ、「大学案内」、「学生募集要項」、印刷媒体及び進学ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパス等を通じて、各学科が志願者に求める資質・能力を広く公開している。

こども育成学科では、教職を担うべき適切な学生確保のため、「大学案内」やオープンキャンパスの説明の中でアドミッション・ポリシーを明示して学生募集を行うとともに、入学者選抜の面接の際にはこの点について理解していることを確認している。

健康栄養学科では、さまざまな学生募集活動を通じて、優れた食育・栄養指導担当能力に加え、本学の基本理念である「愛と奉仕」のボランティア精神を体得し、豊かなコミュニケーション能力と思いやりの心をもって地域社会で人々に積極的に関わっていくことのできる教師像を示している。

〔長所・特色〕

学生の確保は、高校への出前授業やオープンキャンパスでのミニ講義や個別相談を通じて本学の教職課程の特徴・利点について周知している。短期大学では、長期履修制度を活用した3年コースを開設しており、教職志望の学生も比較的ゆとりをもって学修ができることも特色のひとつである。また、個に応じた細やかな対応を実施し、補習の時間などに個別支援を行っている。

こども育成学科では、令和4年度から一般教育科目として「一般教養基礎」を新設し、保育者の仕事や資格取得の道のり、必要とされる基本的・専門的な力について理解することで、卒業まで見通しをもって学ぶための基盤づくりを行っている。また、「Sanyo 子育てサポート実習」という本学独自の実習科目を設置し、地域や教育・保育現場での実践的な学習や体験を行い、応用力や実践力を身に付ける場を提供している。さらに、3年コース生に対しては、授業の少ない午後の時間を活用して文章作成や実技科目の補習を実施し、積極的な参加を勧めているほか、授業のない時間の学修を支援するために学習支援室を整備している。

健康栄養学科では、2年次の教育実習に向けて、1年次から、事前指導と準備の時間を課外に確保して、指導案や教材作成の個別支援を行い、教諭としての意識を高めている。また、学生がいつでも活用できるように、教科書や指導書、問題集を備えた学修支援室を整えている。

〔取り組み上の課題〕

こども育成学科では、入学者の教職を目指す意欲が持続するよう、授業やクラス顧問による個別面談を通して丁寧に指導している。しかし、短期大学の実際の授業内容や難易度、課題量と、高校時代にイメージしていたものにギャップを感じて戸惑う学生が少なからずいることから、授業での学生の様子を教員が共有し、より丁寧な個別指導を行う必要がある。

健康栄養学科では、岡山県のみならず栄養教諭採用人数が限られているため、学校以外の給食施設への就職を希望する教職課程履修者の発生が予測される。栄養教諭免許取得希望者には、進路選択肢の拡大について十分説明し、学生の意欲や能力を伸ばし続けるために、2年後期の演習科目においてさらなる工夫が求められる。

- ・資料 2-1：山陽学園短期大学「履修便覧 2022」P.3～5、「大学案内」、「学生募集要項」、その他印刷媒体（新聞広告等を含む）

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

こども育成学科では、就職支援科目を通して、社会人として必要な一般常識と基本的マナーを基盤に、保育者に必要な専門性と知識についての学習を促進している。また、学生のキャリアへの意欲を高め、実務能力を習得することをねらってボランティア活動を推奨しており、一定時間のボランティア活動を行った学生には単位認定している。さらに、3年コースの希望者を対象に、文章作成や実技科目、ピアノ等の補習を実施しているほか、協力園等での保育アルバイトを紹介するなど、専門職への就職を見据えて学習や体験の機会を提供している。

健康栄養学科の栄養教諭免許に関しては、一方で全国的に学校栄養職員の募集がなくなり、今後学校で勤務を希望する場合には栄養教諭の資格が不可欠となっていることから、また、他方、食育重視の流れの中で、認定こども園にも栄養教諭が配置できることから、今後その需要が増大することが見込まれるところである。県内では、今のところ、栄養教諭の免許を取得できる短大は本学のみである。本学のオープンキャンパスなどで、高校生や保護者から栄養教諭資格取得の要望が相当多く聞かれ、加えて、本学卒業生・在校生にも栄養教諭資格取得を希望する者がかなりいる。

〔長所・特色〕

こども育成学科では、卒業年次生を対象に「保育士合同面談会」を開催し、幼稚園や認定こども園、保育所の園長や先輩から、仕事の内容ややりがいについて“生の声”を聴く面談会を開催し、就職への意識を高めている。また、これから就職活動を始める学生とその保護者を対象に「就職懇談会」を開催し、具体的な就職活動の流れを説明し、保護者に協力を依頼している。そのほか、キャリア支援の一環として、在学中に漢字検定の受検を推奨し、授業内に受検対策を行っている。

公立園への就職を希望する学生に対しては、入学直後から公務員試験対策講座（一般・教職教養、専門試験）を開講している。併せて、私立園への就職希望者に対しても、実技試験や小論文対策を個別に指導し、学生一人ひとりの適性や目標にあわせた就職指導を実施している。

健康栄養学科では、岡山県教育委員会が策定した「岡山県教員等育成指標及び研修計画」に示されている栄養教諭育成指標に従い、現場で必要とされる栄養教諭の育成を目指して指導を行っている。

さらに、栄養教諭採用試験受験希望者に、1年次より教員採用試験対策講座（一般・教職教養、専門試験）を開いて、学生の意欲や適性に応じてきめ細かな指導をしている。教員採用試験に必要な資料を学科に備え、学修支援室で自主的に取り組むことができるようにしている。このほか、幼稚園や認定こども園、保育園に、栄養教諭の免許をもって就職し、食育を実践したい学生に向けて、毎年11月に開催する「就職懇談会」のなかで、具体的な就職活動についての支援を行っている。

〔取り組み上の課題〕

こども育成学科では、就職支援科目や対策講座を通して、個別対応をきめ細かく行うことで、手厚く綿密なキャリア支援を行っている。しかし、3年コースは2年コースと比較して毎

学期の履修科目が少なく、余裕をもって学べる反面、学生の気の緩みが生じやすい。基準項目1-2で述べた「履修確認シート」をより一層活用することで、教職に就く意識付けを行うとともに、これまでの学修を振り返り、更には今後の就職までの見通しが持てるよう指導する必要がある。

健康栄養学科では、岡山県の栄養教諭募集が数年間でいていないことから、他県を受験することを勧めている。他県を受験するためには、各県にあわせた対策が必要となるため、近隣県の採用状況を把握し、学生の希望に応じて個別の支援を行うことが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：こども育成学科「教育実習日誌」、健康栄養学科「栄養教育実習録」
- ・資料 2-2-2：健康栄養学科「岡山県教員等育成指標及び研修計画」

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。そして、「教育の基礎的理解に関する科目等」に対するコアカリキュラムは、「教職課程認定基準」に基づく授業計画がシラバスに反映された教職課程編成となっている。さらに、時間割の配置運用に当たっては、教職課程科目と教職課程以外の科目が適切に配置され、学生が無理なく教職課程を履修できるように配慮している。

こども育成学科では、教職課程コアカリキュラムに基づき、また保育教諭養成課程委員会「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究」のモデルカリキュラムを参考にして教育課程を編成することで、質の高い幼稚園教諭の養成を目指している。

健康栄養学科では、教職課程科目も、教職課程コアカリキュラムに対応するように編成している。さらに、本学独自の「せとうち農園」との連携事業などを取り入れることで、より深い実践力が身に付くように工夫している。

〔長所・特色〕

こども育成学科の教育課程のカリキュラムの概略は以下の通りである。

まず、1年次において、「教育原理」や「教育課程総論」、「子ども家庭支援の心理学」、「教育心理学」、「特別支援教育・障がい児保育」等を履修し、幼児教育・保育の基本的な知識や考え方を身につける。また、「教職論」や「子どもと表現A」など5領域に関する専門的事項に係る科目を履修することで、教職への見通しと各領域の知識を身につける。

2年次では、「教育方法論」と「子どもの理解と保育・教育相談」を履修することでより広く教育全般の基礎的理解を深めるほか、「保育内容総論」や「保育内容の指導法」の科目を履修することで、より幼稚園教育における指導や指導計画の考え方や実践力を身につける。

実習について、1年次の最後に「教育実習Ⅰ」を観察実習として位置付け、附属幼稚園で実習における観察ポイントや日誌の書き方等を学ぶ機会を設定している。その後、2年生の前期に「教育実習Ⅱ」を履修し、「教育実習Ⅰ」で培った基盤の上に、学生がより実践的に自ら考え、部分指導・全日指導に当たる総合実習を行っている。「教育実習Ⅰ」で感じた自らの課題を解決した後、「教育実習Ⅱ」に臨むことで、教育的効果を高められるように工夫している。

そして、2年次の後期に「保育・教職実践演習」を履修して、これまでの講義や演習、学外実習等の補充・深化を図るとともに、通年科目として「行事企画実践演習」や「Sanyo子育てサポート実習」を設定し、応用力や実践力を身につけられる教育を展開している。

健康栄養学科の教職課程のカリキュラムの概略は以下の通りである。

まず、1年次において、「教育の原理と制度」や「教育心理学」、「教職の意義・職務内容と教育課程」、「特別支援教育」を履修することにより、教育と教職に関する基本的な知識や考え方を身につける。栄養に係る科目としては、「栄養教諭論」を履修することにより、栄養教諭の役割や職務、児童生徒の食に関する課題、食に関する指導についての知識や考え方を身につける。

更には、教職に関する科目でも栄養にかかわる科目でも、地域貢献についての内容を含め、これを、本学が主催する地域貢献事業「Sanyo 子育て愛ねっと」に参加することで実践する。

そして、2年次では、「教育方法論(道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導法を含む)」と「生徒指導・教育相談の理論及び方法」を履修し、授業の方法や児童生徒のさまざまな指導の在り方についてより広く詳しく学ぶ。同時に、「栄養教育実習」、「事前事後演習」や「教職実践演習」などの科目を履修し、教育実習への準備や実習を通じての教育実践、更には事後の振り返りと弱点の補強をすることで、栄養教諭の職に就くための準備とする。これらに加えて、課外活動として「地域での食育活動」を教職実践演習の中で行い、より広く深い実践の機会を設ける。

従来の健康栄養学科のカリキュラムに以上の教職課程のカリキュラムを加えて学ぶ機会を設けることにより、心身ともに健康で充実した人生を支える食生活に向けた確かな知識と技術を児童生徒に指導する力を有するとともに、本学科の教育を社会に還元し、地域社会の中で活躍することのできる栄養教諭の養成を目指している。

〔取り組み上の課題〕

基本理念や現状理解にとどまることなく、現場での実践力を更にいかにして身につけていくかが今後の課題としてあげられる。また同時に、ICT 機器のさらなる充実とそのための予算措置も求められる。

こども育成学科では、教職課程の認定の際に付された留意すべき事項について令和3年度に事後調査対応届を提出し、令和4年度より、各領域の「領域に関する専門的事項」の開設を行っている。そのため、新設された科目の学習内容や指導方法を教員間で情報共有し、指導体制をより系統的で充実したものにするための研修機会を設ける必要がある。

健康栄養学科では、現場での実践力を身に付けるための機会は設けているが、その内容をより充実したものにしていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：山陽学園短期大学「履修便覧 2022」P.3～5

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育実習後の教職必須科目である「教職実践演習」では、実践的指導力育成を目指し授業内容が編成され、「シラバス」の目標達成に合わせた教科教育の実践的指導力の育成を図っている。本学では、大学関係者並びに短期大学の所在する学区内の地域役員、幼稚園・保育園、県担当者で「Sanyo 子育て愛ねっと実行委員会」の組織を立ち上げ、県や市との連携のもと、子育て支援のためのネットワークづくりの取り組みを実施しているが、この取り組みを実習後に実践的指導力を更に深化させるためにも活用している。

こども育成学科では、「教育実習Ⅱ」の実習園が決定した後に、実習園との信頼関係を構築して教育実習を円滑に実施することを目的に、「教育実習打ち合わせ会」を毎年開催している。また、教育実習生の受け入れや教員の相互派遣等の連携を図るために、岡山市内の私立幼稚園と協定を締結し、年1回の意見交換会の開催している。

健康栄養学科では、公立学校での栄養教諭経験者を教職課程に配置して、教育委員会・学校現場との情報交換を行っている。さらに、岡山市教育委員会が開催する「岡山市教育実習連絡協議会」において、教育実習について各教育機関、岡山市との連携・調整を行っている。

〔長所・特色〕

こども育成学科では、地域における子育て支援を推進するため、「Sanyo 子育て愛ねっと」事業の一環として、地域の未就学児および保護者が参加できる学科主催の「親子交流広場」や全学的な「わくわくスタンプラリー」を開催しており、学生が実践力を身に付ける場となっている。また、地域の保育園等が実施する夏季インターンシップや保育アルバイトへの参加を推奨しており、地域と連携して実践力のある保育者養成を展開している。

健康栄養学科では、教育委員会と教職課程を担う岡山市内各大学間で毎年開催されている「岡山市教育実習連絡協議会」で、教育実習の課題や方向性を協議している。

「Sanyo 子育て愛ねっと」事業の一環として、地域の未就学児および保護者が参加できる学科主催の親子交流広場「たべものはかせになろう」を開催し、学生が食育の実践力を身に付ける場となっている。

また、「教職実践演習」の中で、地域での食育活動を実践している。栄養教諭に望まれている食のコーディネート力を養う機会として「せとうち農園」との連携事業を行っている。さらに、農園で栽培された野菜を使った食育を地域の子どもたちに実践することで、実践的指導力を育成している。

〔取り組み上の課題〕

こども育成学科では、子育て支援行事への企画・準備段階から継続的に参画する機会が必ずしも十分に確保できていない。幼稚園教諭として求められる指導力や社会性に加えて、行事の企画力や実践する力、責任感を実践的に向上させるための工夫が必要である。

健康栄養学科では、地域での食育活動を始めているが、食のコーディネート力を養うためには、学生が主体的にかかわっていくための工夫を更に行う必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

・資料 3-2-1 : Web シラバス

Ⅲ. 総合評価

教職課程委員会が定期的開催され、教職課程の在り方の見直しが行われている。また、教職課程委員会と学科教職課程とが連携し、教職課程の在り方によりよい改善を図ることを目的とした自己点検評価も行っている。教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているかも自己点検評価を通じて機能しつつある。

その一方、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組、学生の確保・育成・キャリア支援、適切な教職課程カリキュラムについて、評価できる部分もあるが、それぞれに課題もあり、今後改善や工夫の必要がある。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和4年度の作成プロセス（ロードマップの記録）

6月17日	教職課程委員会による教職課程自己点検評価の実施決定と合意
6月30日	法令由来事項の点検と教職課程へのデータ等の扱いについての意見聴取
7月12日	教職課程自己点検評価の進め方の検討・協議（形態・内容提案）
7月12日	実施手順、執筆分担の最終確認（分掌、日程協議）
9月20日	委員による教職課程自己点検評価の実施（各担当者で分担執筆）
9月27日	大学、短大ごとに再編集作業 9月27日
10月14日	「教職課程自己点検評価報告書」の合議のための教職課程委員会開催
11月9日	教職課程委員会での合議後、自己評価委員会及び合同会議にて協議、決定
11月30日	大学・短大のホームページ等で公開 当該報告書を基礎とした教職課程に関わる次年度用アクションプランの策定

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 山陽学園					
大学・学部名 山陽学園短期大学					
学科名 こども育成学科／健康栄養学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数			こども育成学科:22 健康栄養学科:19		
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)			こども育成学科:18 健康栄養学科:19		
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)			こども育成学科:19 健康栄養学科:0		
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)			こども育成学科:4 健康栄養学科:0		
⑤ ④のうち、正規採用者数			こども育成学科:4		
⑥ ④のうち、臨時的任用者数			こども育成学科:0		
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
教員数	9	4	5	0	3
相談員・支援員など専門職員数 0					